

# 熊本地域医療センターだより

院長 廣田昌彦

平成25年(2013年)1月発行

熊本地域医療センター電話番号(代表) 096-363-3311 FAX 096-362-0222

2013

1

通算92号

月号

【ワキン】

和風



医師会病院理念

『患者さんの権利を尊重し、より良質で安全な医療を提供できるように、医師会会員と一丸となって地域医療に貢献する。』

CONTENTS

- 2面 小児のウイルス性胃腸炎 年末年始の外来業務
- 3面 寄稿・加来 裕先生
- 4面 認定看護師主催の勉強会

## 「ひとの気持ちになって考える。」

病院長 廣田 昌彦



「ひとの気持ちになって考える。」とよく言います。でもこれって非常にむずかしいものではないでしょうか。私自身も「夜、眠れない。」という人に、「勉強する時間が十分あってうらやましいです。」などと言ってしまって、「おまえは眠れない人の気持ちを考えたことがあるのか。」と、しこたま怒られた経験があります。このようなことは逆に、自分自身も経験します。私は、アルコール類が飲めません。飲めないというより、あまり好きではありません。だれでも好きな食べ物、嫌いな食べ物、好きな味、嫌いな味があるように、アルコールが嫌いな人は嫌いなのです。でもこれはアルコールが好きの人にはあまりわからない事のように、一気飲みなど、新入生や新入社員など年下のものにアルコールを強要する風習が日本にはあります。そしてアルコール性急性

膵炎というこわい病気が引き起こされることもあります。欧米のように、宴会でも、それぞれが好きな飲み物を飲んで、快適に話をし、交流を深める、有意義な時を持つ、というふうにはできないものかといつも思います。話が脱線してしまいました。話を元に戻します。

「ひとの気持ちになって考える。」は、病院では、「患者さんの気持ち、立場になって考える。」ということであり、非常に大事なことです。しかも、それは総論的な「一般的な患者さんにとって」ではなく、「その人自身にとって」という完全な各論でとらえないといけない事項ですので、なかなか大変なことです。それぞれの患者さんで、年齢も、家族構成も、育ってきた環境も、現在おかれている状況も、もちろん病状も、全く、あるいは少しずつ、違うわけですから、完全に患者さんの気持ち、立場になって考える、ということには、実際は結構無理があるのです。でも、少しでもそう考えようと努力す

ることは必要だと思います。ところで、その逆を求めるのは、医療従事者にとって、贅沢すぎるのでしょうか。よい医療が行われるためには、医療従事者がやる気、意欲を維持することも重要です。医療従事者数は不足していて、みんな時間外労働でがんばっています。特に医者は交代で働くことができるだけの人数はとていません。これは地域医療センターだけではなく、一部の恵まれた病院を除くと、どの病院も全国みんな同じ状況なのです。そのような状況であることをぜひご理解いただきたいと思います。それでも、皆様に、暖かい言葉をかけていただくと、みんな意欲、やる気を維持することができます。われわれも、患者さんの立場に配慮してまいりますので、どうぞ、市民の皆様も、われわれの立場にもご配慮いただければと思います。そして、よい関係、よい循環を構築していきましょう。どうぞ、今年もよろしくお願ひ申し上げます。